

名古屋市 西部地域療育センターだより

No. 34

正面壁画「友情」より

平成27年度 西部地域療育センター連続講座（平成27年11月20日） 幼児期の発達を支援するために ～それぞれの立場から～Ⅱ

不器用な子どもたちへの支援 ～鉛筆や箸の使い方指導の実際～

西部地域療育センター 作業療法士（OT）近藤 久美

平成19年（8年前）の連続講座で「不器用な子どもたちへの支援」についてお話をしました。その時の結論は、「①不器用にも理由があります。本人や母親の努力によっても道具操作の発達に問題が生じた場合、作業療法士にご相談くださるのも一つの方法。」「②鉛筆の持ち方やはさみの使い方に問題がある場合、その前の発達課題であるスプーンの持ち方をチェックして、三指握りが出来るよう援助しましょう。」でした。

その後、スプーンの持ち方を保育園や幼稚園で重視していただくようになり、以前のように総握りで箸や鉛筆を把持するお子さんがOTに処方されてくることが激減しました。ハサミを逆さに持って切る子どもも以前ほど見かけません。連続講座で話す機会をいただいて良かったと思います。平成18年度当時の小児科処方終了分は診断が自閉症スペクトラム症の9件でしたが、今ではADHD、不器用が主訴の発達性協調運動障害へと広がり、一学年約70人の不器用なお子さんを見るまでに発展しています。

一方で、当時とは違った課題も新しく出始めています。様々な理由から、子どもたちの運動能力や作業能



力を鍛える機会が失われ、不器用な状態のお子さんが増加しているのではないかと危惧される昨今です。

手先の不器用について言えば、ここ2年くらいエジソン箸から卒業できない…普通の箸がうまく使えるようにならない…という訴えがOTを処方されたお子さんの中で急に増加しました。以前から、エジソン箸などの自助具の箸に頼らざるを得ないお子さんはいましたので、より効果的な指導法の確立が必要でした。今回はそのあたりもご紹介します。

まず、不器用についておさらいしておきましょう。不器用とは、脳性麻痺という診断名を与えられていないにもかかわらず、運動領域でかなりの困難を示すことです。脳性麻痺ではないけれど、正常とも言えない、運動機能の面で困難を抱えている子どもたちが確かにいます。診断名としては「運動機能の特異的発達障害」「発達性協調運動障害」といい、立派な発達障害の一つです。具体的に例をあげると、よく転び怪我をしやすい。滑り台やブランコなどの運動遊びが苦手。椅子に座っても安定せず、ごそごそする。スプーンや箸が上手く使えない。鉛筆やクレヨンが上手く持てず、描画や書字の発達が遅れているなどの訴えがあります。

でも、このようなお子さんはどこにでも居る、たいしたことではない、大きくなれば自然に治ると考えていませんか？私もそうでしたが、シエラヘンダーソン先生の講演を聴いて、考えが変わりました。

つまり、不器用な大多数の子は、不器用であること

はじめに…



幼児期に運動機能の獲得が不十分な子どもの予後は良好か？

- ・育っていくうちに不器用さは自然に治ると考えられてきたが、シエラ・E・ヘンダーソンらによる縦断的研究によると、こうした主張は根拠がないことが判明した。
- ・不器用な大多数の子は、不器用であることの困難さから逃れられるとはなく、学校生活を通して学習上の問題や情緒的・対人的にも深刻な問題に直面し続けるのである。

の困難さから逃れられることはないのです。運動機能の問題がなんと対人関係の不器用にもつながっているというのです。

8年前の連続講座「不器用な子どもたちへの支援」では、以下のようなお話をさせていただきました。

- 箸・鉛筆などの道具操作を向上させるためには、スプーンの三指握りを獲得することが有効である。
- 不器用なお子さんの箸操作能力獲得のために、適切な自助具箸を選んで使わせるとよい。
- そして、残っていた課題は、以下の内容でした。
- 鉛筆を正しく持ててもひらがなが書けるようにならない子どもがいる。
- ひらがなは書けるようになって、箸操作は自助具に頼らざるをえず、なかなか普通の箸が使えるようにならないお子さんがいる。
- ひも結び、縄跳び、読書、…など次から次へと新しい課題に困難を抱えるお子さんがいる。

また、リングに指を入れるタイプの箸問題など新たに出現した課題もあります。

そこで、当時から日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（以下JMAPと略します）を利用した子どもたちの能力把握・得意不得意を評価することをやり始めていました。あらゆる作業活動をいよいよOTの場面で教えていたらぎりがありません。なぜ新しいスキルを獲得するのに困難を抱えているのだろう、どうしたらよいのだろうと、子どもたちの持っている機能について、多面的に評価してみることにしました。JMAPには以下の5つの指標があります。

日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）

- 基礎指標・・・全身の運動・感覚情報の処理
- 協応性指標・・・運動のコントロール
- 言語指標・・・言葉を聞いたり話したりすること
- 非言語指標・・・視覚認知
- 複合能力指標・・・複数の感覚情報の処理を要するもの

最近のOTを処方される子どもたちは、鉛筆や箸を正しく持てない子どもたち5歳（年中）になっても普通の箸で食事が出来ない子どもたち、6歳前後（年長）ひらがなが読めるのになかなか書けるようにならない子どもたちなどです。主に手先の不器用なお子さんです。

- 平成26年度年長児実績で、
- ・OT一回だけ実施しアドバイスや補助具の紹介をしたもの20件
- ・OTを複数回実施したものの約60名 でした。

自閉症スペクトラム症、注意欠陥多動性障害（ADHD）、精神発達遅滞（MR）、発達性協調運動障害（DCD）など診断は様々でした。

OTの効果が上がるためには最低でも半年はかかります。遅くとも就学前年度の春夏くらいまでにOTを開始できるとよいと思います。もし遅れても、評価アドバイスは出来ます。不器用だと理解してもらえただけでも違います。

OT実施児童をJMAPでタイプ分類しました。平成26年度年長児でIQ＝71以上で、なおかつJMAPを実施したお子さんは40名でした。

OT実施児童をJMAPでタイプ分類

- ・協調運動と言語理解が苦手・・・13名
- ・協調運動と言語理解・視覚認知すべて苦手・・・10名
- ・協調運動のみ苦手・・・6名（うち1名は支援学級へ）
- ・協調運動と視覚認知が苦手・・・6名
- ・言語機能が苦手・・・2名
- ・苦手なし？・・・2名
- ・言語機能と視覚認知が苦手・・・1名

やはり協調運動に関する指標が低いお子さんがOT処方されていることが分かります。言語機能のみが苦手も2名います。コミュニケーションが苦手だと、新しい作業スキルを人から習うことが困難で、道具操作の発達が遅れますが、分かりやすい教え方の工夫が効果的です。苦手無しも2名、一名は家庭の教育不足による不器用、もう一名は股関節だけが特別に不安定で不器用な特殊なタイプでした。言語理解と視覚認知が苦手も1名、やはり知的な機能が不十分でも、道具操作の発達は遅れます。

最近のOTの定番プログラムです。

最近のOTの定番プログラム

- ・道具操作を中心に、上肢機能、積み木構成課題などの視覚認知の評価、日常生活動作の自立の程度を評価し、初動のプログラムである道具操作のトレーニング課題を設定する。
- ・JMAP（日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査）を実施し、その子の得意不得意を把握する。
- ・道具操作の練習やJMAPの実施に並行させて、その子の遊びや運動の様子を観察したり、新しい遊びを開発する。（ご褒美としても・・・）
- ・JMAPで明らかになった不得意機能改善のための活動を運動や遊びに取り入れてゆく。

自閉症スペクトラム症のお子さんはいつも玉入れしかなかったりなど、遊びも広がりにくいです。OTで積極的にブロック遊びなどの構成遊び、オセロやトランプなどのゲーム、コマやお手玉、けん玉などの昔からある遊びも経験させます。好きな活動は、お勉強を頑張ったご褒美にもなります。そして、JMAPで明らかになった不得意機能改善のための活動を運動や遊びに取り入れてゆきます。OT室にある各種の感覚統合訓練器具を活用します。全身の運動機能改善は、医師とも相談して、最近ではPTつまり理学療法を利用していただくことも増えました。

鉛筆の操作・書字の指導

当日はビデオで「静的三指握り」と「動的三指握り」の動きをご覧いただきました。

「静的三指握り」は指の細かい動き、分離した動きはなく、手全体を紙から浮かせて、手全体を動かして書いています。

「動的三指握り」は手を紙の上に載せて、指の細かい動き、分離した動きで書いています。

以前は、OTでは持ち方指導をするのであって、字の読み書きを教えることは幼稚園や保護者がやるものとして、あまり積極的に読み書きは教えていなかったのですが、最近は私のOTにおいても書字トレーニングを行うことにしています。それはなぜかという、発達障害児に特徴的な困難さが書字活動に現れると考えるからです。たとえば、「書き順が逆になる」、「ひらがなが読めるようになるのは早かったのに、書けるようにならない」「椅子の上でぐそぐそグラグラ落ち着かず、説明を聞いていない」などです。読み書き教育の場は本来別にあるとしても、OTが「書字」という活動を利用して、子どもの心身の機能向上・能力獲得を図って良いのではないかと私は考えています。コミュニケーションが苦手、過敏性やこだわりもある自閉症スペクトラム症のお子さんにはやはりOTの場面での書字指導は効果的に思います。そのお子さんの特徴に合う学習方法が分かるというメリットもあります。普通級に進学予定であれば、目標は一学期中に連絡帳が読める字で書けるくらいとしています。

OTにおける書字練習の実際



- ・持ち方を重視する。静的・動的三指握りへ
- ・マスは約3cmのものを使用
- ・三角太軸鉛筆、印のついたもの、6B・4B・2Bなどから筆圧に合ったものを使用
- ・書き順までまねさせる。
- ・筆圧が弱い場合、姿勢を安定させるよう、全身の運動機能にアプローチする。

まず、持ち方を重視しています。静的三指握りから動的三指握りへ発達するためにも、持ち方が重要です。動的になるためにはある程度小さく書くことも必要なので、様子を見てマスは約3cmのものを使用させます。初めは6cm大のマス、次はいきなり3cmで指導しています。その方が、指の分離した動きが出やすいです。字は、簡単なものから練習し、5文字ずつ進めてゆき、次第に子どもが書きにくい字へと進めてゆきます。持ち方を重視するため、三角太軸鉛筆やグリップ類を積極的に使用します。こだわりのある発達障害のお子さんは一度誤学習してしまうと、修正に大変な努力を要します。誤学習を最低限にする対策は重要です。それから、書き順までまねさせます。まねは学習の基本です。発達障害のお子さんは動きを認識することも苦手です。理解できる速度の見本の提示の仕方を探ります。

各種の三角太軸えんぴつ・グリップ



子ども用の鉛筆ですが、指を置く印のついたもの、筆圧が弱いお子さんには、6B・4B・2Bなどから筆圧に合ったものをOTで選んでいます。鉛筆は、運筆能力がアップしたら、半年くらいを目安に太さや濃さを変えてゆき、就学するころに出来れば普通の太さの六角軸鉛筆2Bでひらがなを全部書けるくらいをめざします。筆圧のこともよく問題になりますが、筆圧が弱いことの原因は手先よりも股関節とか腹筋や背筋などの姿勢を保つ筋肉の働きが上手くいっていないことにある

座位保持を助けるいす・クッション



場合が多いです。ですので、筆圧が弱い場合、姿勢を安定できるように全身の運動機能にアプローチしたり、写真のような座位保持を助けるいすやクッションを使うことも効果的です。

箸操作指導

当日は、OTで箸操作指導を受けたお子さんの、そろそろ合格レベルに近づいてきた時期の操作をビデオでご覧いただきました。

ここからは箸操作指導についてお話しさせていただきます。

箸の自励具・トレーニング箸各種

指をリングに入れるタイプ

ピストル型柄のついたタイプ



子ども用のしつけ箸や自励具箸の話から始めます。左がいわゆるエジソン箸、指をリングに入れるタイプのものです。パッケージに2歳から使えると書いてあるので、最近は本当に2歳から使ってしまう親子が増えたように感じます。極端に不器用でなければ、2歳でも使えます。しかし、エジソン箸から卒業することが難しくなるお子さんが増えています。昨年くらいからOTでもこのタイプの「不器用」が増えました。いろいろ評価していても、普通の箸が使えない原因がエジソン箸を使ったこととしか思えないような場合すらあります。エジソン箸は握る動きで箸が操作できてしまいます。指の分離運動は必要ないのです。お子さんによってはスプーンすら使いたがらず、エジソン箸のみで食べたがるということも起きています。これでは、スプーンで経験すべき大切なことが不足します。OTで子どもたちを指導していると、スプーンを上手に操作してこぼさず食べることができるようになると、視空間認知能力も伸びるようになります。こぼさなくなったと同時に、積み木構成課題の斜めの構成が出来たお子さんがいらっしゃいました。スプーンが斜めになればこぼれます。それが分かるようになったということでしょう。知的機能を伸ばすためにも、子どもが自分でスプーンを操作して食べる経験は重要だと考えます。

本当に不器用で、5歳になっても箸が使えないようなお子さんにはエジソン箸は重宝します。小学校でも極端に不器用なお子さんや支援教育の場面でエジソン箸は手に入れやすく重宝です。小学生用サイズ、女性用、

大人用とサイズも豊富で、左利き用のものも販売されています。ひだりから、幼児用、小学生用、大人の女性用です。

右は、ピストル型柄のついたタイプの箸です。柄が小さいものもタイプとしては同じです。左から、レベル順に並べてみました。真ん中の緑のトレーニング箸は左手用も販売されています。私が今一番よく使うトレーニング箸です。

OTにおける箸操作指導の実際



- 指にリングを入れるタイプの箸を2・3歳のころから長く使わせることは避けるべきである。5歳になってもまだ箸が使えてない場合に使用するのはいい。
- その箸でついた癖を取るには別のトレーニング箸を使う。(左写真)

「エジソン箸を2・3歳のころから長く使わせることは避けるべきである。5歳になってもまだ箸が使えない場合に使用するのはいい。」ということ、療育グループ(1/2歳児)のOT学習会で保護者の方に伝えていきます。

エジソン箸でついた癖を取るには別のトレーニング箸を使います。左写真の箸です。この箸を使わせながら「箸がまえ」という正しい箸の持ち方の練習をすると、たいていはそのうち普通の箸が使えるようになります。このトレーニング箸の効果です。

このトレーニング箸の効果



普通の箸は総握りで使うお子さんも、このトレーニング箸を使うと楽に指の分離した動きで正しく箸を操作する練習が出来ます。なおこのお子さんは、スプーンの三指握りは出来ています。

「はしがまえ」をやってみましょう

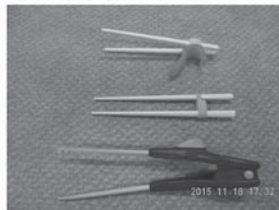


はしがまえを指導するようになってから、就学までに普通の箸が操作できるようになる確率が上がりました。持ち方が崩れたときもお母さんが「はしがまえしなさい」と声をかければ良いので、重宝します。また、大きくなってこの動作が残ってしまっても問題ないので、こだわるタイプの自閉症スペクトラム症のお子さん向けのやり方だと考えています。

今日の参加者名簿を見たら、ケアや支援関係の方も多かったのもので、その他の箸自助具・トレーニング箸も紹介しておきます。

その他の箸自助具・トレーニング箸

ピンセットタイプ



指を置く場所に印のついたタイプ



左はピンセットタイプの自助具箸です。介護用品を扱う店でしか手に入らないものもあります。少々麻痺があるなど相当不器用でも使えます。小学生用くらいのサイズのものから有ります。右は、昔からあるタイプのしつけ箸です。器用でないと使えません。コミュニケーションが苦手なお子さんや、どこに指を置いてよいのかすぐに分らなくなる、指認知が苦手なタイプのお子さん向きです。

では、この夏休みに来た新一年生25人の様子をご紹介します。

最後に、私が今考えている課題についてお伝えします。

OTを実施しても、JMAPの成績が上がってこないお子さんがいます。このようなお子さんたちが本当の発達性協調運動障害であって、もっと医療としてOTが頻度を上げて関わらなければいけない子どもたちなのではないかと考えています。さらなる支援の方策を確立すべきと考えています。

「移行対象」とは何でしょう？

—幼児が成長していく時に、“おもちゃ”や“遊ぶこと”が果たす役割—

西部地域療育センター 心理担当 堀部 文男

*はじめに

移行対象(transitional object) …たとえば、幼児が持ち歩く毛布。

スヌーピーに出てくるライナスの毛布。この言葉(移行対象)は、英国のウィニコット(Winnicott, Donald Woods 1896~1971)が用いました。この人は、40年間小児科医として勤務し、同時に個人開業して精神分析家として働きました。

1. “移行”とは…幼児が「母親と融合している状態」から、幼児が「母親の外部にあり、独立している状態」に移行すること。

幼児は、安心を得るため、不安から逃れるため、たびたび「母親と融合している状態」にあることを確認しようとしています。幼児は、母親の乳房が自分とつながっていることを確かめて安心します。

乳房…栄養、暖かさ、包み込んでくれ、危険を遠ざけ、満足を与えてくれる働きを持っている、と幼児には感じられています。また、自分自身とは連続したものと、とらえられています。

2. “対象”とは？

人間、人間の一部、人間以外の人形、おもちゃなど、人(幼児)が情緒的やりとりを行う相手。さびしい、なつかしい、あいしている、にくんでいる、うらやましい、みとめてほしい、といった気持ちの交流を行う相手。

3. “移行対象”として用いられるもの

たとえば、ウサギの人形、飼っている動物（イヌ、ネコ、ウサギ…）

ある幼児はウサギと過ごしていると元気づけられるという例がある。

お気に入りの毛布、お気に入りのシャツ…ある幼児は、ちょっとした特徴一糸がはみだしていることを喜び、「バア」と名付けて特定の毛布と親しむ。

持ち運ぶオモチャ（ぬいぐるみ、ミニカー、フィギュア…）

4 “移行対象”の性質

母親の身体ではないが、母親の要素を持ち、自分の身体ではないが、自身の要素を持つ。幼児の誕生前から、幼児にとって自分の歴史が始まる前から存在していた（母親と同様に）と感じられる。母親との情緒的つながりの代役になる。

5. 女の子にとってのお人形は“移行対象”として考えやすい

ほっぺこちゃんは、ある時は自分自身として、だいに抱っこされ、世話をされる。

この時、持ち主の女の子（あさえ）は、自分自身が母親役割を取ることができる。

ほっぺこちゃん、あさえにとって、お母さんがいない時、お母さんの代わりになってくれる。ほっぺこちゃんが母親になり、自分は慰められる側（赤ちゃん）になる。

6. 男の子にとってのミニカーはちょっと考えにくいのですが…

ミニカーや、のりもののおもちゃは、自由に走り回ることができる。（男の子の、自身がそうありたい願望を引きうけてくれる、自分自身の要素を持つ）

ミニカーやのりものは、中に人間が入ることができる。（男の子が、再びお母さんのおなかの中に入る、お母さんの包容力に受けとめられる、不安から守ってくれる、そういう母親としての機能も持っているように感じられる。）

こう考えていくと、移行対象として考えてよいようです。

7. “移行対象”が生じる手前で行われること

おしゃぶり、指しゃぶり

自分の体か、自分の身近なものをいじる、あそぶ。

シーツや毛布をつかみ、指と一緒に口に入れる。

服の袖口を吸う。服のタグを吸う。

糸や綿、毛布をほぐして、糸くずなどにしていじる。口に入れる。

母親の体をいじる。受乳のしぐさ、耳たぶや髪の毛、ひじや腕をいじる。（母親の体をいじりながら、受乳または母親と融合している幻想にひたる。）

くり返し、リズムミカルな印象を楽しむ。マンマン…という発声、喃語。

歌っているような音を伴って、口をもぐもぐさせる。

8. “移行対象”に似た前段階の遊びに幼児が夢中になることがあります。

完全な“移行対象”とはなっていないのですが、その前段階と思われる遊びに幼児が夢中になることがあります。母親との情緒的つながりの代役ではないかもしれませんが。

幼児が、環境についての一定の規則性をとらえて、その規則性に、快感、安心感、情緒的安定を感じる遊びと言えます。

タテ、ヨコの配列が規則的になっていると喜びます。

積木の配列、缶の積み重ね、皿を並べる。空間の模様（天井、壁面などの空間配置）に見とれる。ブロック並べは、列車や車の列との関連、皿をいくつも並べ



るのは寿司屋さんのベルトコンベアーの感覚印象とつながっている可能性があります。

同心円図形～うすまき図形～回転動作を喜びます。

扇風機、換気扇、エアコン室外機を注目します。あるいは自分がグルグル回って回転する感覚印象を得ます。めまいを伴うことがあります。母親の目や身体の特徴、受乳している時の感覚印象、めまい～意識の混濁～入眠時の感覚と共通しているように思われます。

生活習慣、日課などが規則的であることで安定します。

「～をしたら、～をする」「～の道を通ったら、～の公園に行かなければならない」「～を通ったら、～を買ってもらわないといけなない」

快感が得られる見通しと関連しているようです。これらの遊びは、幼児が慣れない状況に直面した時などに、不安から逃れるために用いられったり、強まったりすると思われる。

「一定の規則性」には音楽的なリズム、踊り、リズムミカルな行動となって表現されることもみられます。

空間の規則性には、自動ドアの規則的な動きを見ることが、ベランダの輪郭などを走って確認するなどの行為として現れるものもあると思います。

認知能力が進むと、数の規則性（時計やカレンダーなど）、車のナンバーやエンブレム商品のロゴなどの形式が一定していることを喜ぶようになります。

9. ほっぺこちゃん（「いもうとのにゅういん」）を読んでみましょう

主人公のあさえが、一人ぼっちになって心細い思いでいるときに、次のようなことをあさえは言います。

「ほっぺこちゃん ほっぺこちゃん こわくなんかいいわね。さあ、あたしに つかまって ほっぺこちゃん ほっぺこちゃん あやちゃんは だいじょうぶよね」

言葉の上では、あさえは“おかあさん役割”を取っています。しかし、心細くてほっぺこちゃんをお母さん代わりにして、すがりついているのは あさえです。母と子が入れ替わっています。入れ替わりを繰り返すことで、母親と子どもは融合をしていくことになります。

本来の食卓にいるはずの家族の代わりに、ほっぺこちゃんは席を占めています。

この物語では、ほっぺこちゃんは妹にプレゼントされています。ちょっと不満な終わり方だと思います。というのは“移行対象”は、そんなに軽いものではないからです。妹にやすやすと与えてしまっただけで、姉の精神的安定は保たれるのだろうか、という疑問がわきます。

10. 「こんとあき」について

このお話は、不思議なお話です。お母さんが出てきません。子どもが一人で電車に乗って小旅行するなんて不自然です。実はお母さんと幼児が出かけたのでしょう。あとから、幼児が自分とぬいぐるみの二人で行けたらいいな、と空想した話のように思えます。しかし、このお話ではお母さんがいないことによって、さらに

“移行対象”の性質（お母さんの代わり、自分自身の一部、自分とお母さんをつなぐもの…）がいっそうはっきり表現されています。

“こん”は、あくまでも玩具だから“あき”の認識が進んだ時点で、はじめて意味を持って存在し始めるはずなのに、この物語では“あき”の誕生よりも前から、“あき”の出現を知っていて、待っている設定になっています。

これは“移行対象”の特徴の一つである、幼児にとって、自分の存在よりも前からそれは存在していると考えられていること、と一致しています。

“こん”は“ほっぺこちゃん”よりも、はるかに生き生きとした“移行対象”として描かれています。幼児の空想として、母親なしでも一人で行けるのではないかと、移行対象（自分の一部であり、自分でなく、母親の一部であり、母親でないもの）の助けを借りて、“自立”に向かう、一人立ちに向かう物語として描かれているように思います。

“こん”がもっとも多く言うセリフは「だいじょうぶ、だいじょうぶ」です。これは“移行対象”が、幼児の不安を取り除くことを目的として、幼児に用いられることを表わしています。

“こん”はたびたび傷つきます。“あき”自身が乱暴に扱って、傷んでしまうこともあります。家以外のところへ外出して、危険に遭い、シッポを挟まれてしまいます。犬に連れさらされて砂に埋められてしまいます。これらは、幼児が外界に出掛けた時に、精神的に傷つくことがあります。幼児の傷つきを代わりに引き受けていることを表わしているようです。

幼児はそれと気づかぬうちに相手を（母親を）破壊しています。踏んだり無理やり引っ張ったり（無理やり抱っこをせがんで）、お弁当を買いに行かせて（欲しいものを買って、とやんちゃを言って）相手を傷つけています。幼児は、ちょっと道草をしたくなって、相手を危険な目に遭わせてしまいます。子どもの要求に応えようとした母親が、思わぬ危険に直面することは、しばしばあります。

ボロボロに傷ついてしまった“こん”（幼児の分身、母親をも表わす）は、母親の実家で根本的にいやされます。この物語では、母親が現れませんが、おそらく母親がいやされる場所に行ったときに、幼児もいやされることができることを表していると思います。

母親をとりまく環境の大切さ（母親をいやしうる環境が子育てには必須であること）を絵本の最後に示してくれています。

「砂丘」と「おばあちゃんの家」の対比も興味深いものです。

砂丘…うるおいの少ない殺伐とした世界。外界は時に、幼児の自己感覚をおびやかす、傷つけ、消滅させて（砂に埋められて）しまうこともある。

おばあちゃんの家…いやしの場。生命力を復活させる母性の世界。幼児に自己感覚の基礎を与える。自己感覚とは、自分は自分であっていいんだ、という感覚。

11. “移行対象”の大切さ

“移行対象”とは

幼児（乳児）が使用する、最初の自分でない所有物。その対象は、幼児（乳児）と母親（母親の役割をする人）との結合の象徴。移行対象が生じる空間では、自分（幼児自身）しかない。

その移行対象は、幼児の独占物と言える。

“移行対象”の重要性

幼児は、いつも母親を、自分が使用可能な状態においておきたい。

しかし、いざ相手をして欲しいと思った時に、母親がいけないことはしばしばある。そんな時に、例えばお気に入りの毛布（移行対象の例として）があれば、幼

児はしばらくの間、不安に対処することができます。

“移行対象”としてのおもちゃで楽しむこと、遊ぶこと、リズムカルな動作をして過ごすこと、これらは幼児が成長していくうえで、自立をしていく上で、とても大切な役割を果たします。お子さんは、今どんな遊び方をしているでしょうか。その遊びは、お母さんと子どもの関係の成長に、どう役だっているか、よく見てみましょう。何か新しい発見があるかもしれません。お子さんが大切にしている“移行対象”は、けっしてつまらないものではありません。また、遊んでいる時間は、無意味な時間ではありません。大切に見守ってあげたいものです。

12. 人間は3つの世界に住んでいる

①自分の心の中の現実…こころの内なるおかあさん、内なるおとうさん、心のうちに住むともだちなどとやりとりする世界。

②実世界…現実に関与する自分と存在するおかあさん、現実のおとうさん、おともだち

③潜在空間…“移行対象”が活動する空間。幼児と母親の間に生じ、個人と社会の間に生じます。これは信頼できる体験によって生じていきます。創造的に生きることによって発展し、文化の発展につながっていきます。

母親から幼児（赤ちゃん）への愛情のこもった世話・養育が、幼児の母親や環境に対する信頼感を育て、幼児の創造的な生活を豊かにしていきます。

13. 移行対象の前段階の遊びが長く続く場合には？

子ども（幼児）は次の、ア、イ、ウ、エの順で成長していくものと思われます。

ア. 幼児の「自己」と「母親・環境」は融合していて、区別がつかない。（混沌としている）

イ. 幼児の「自己」と「母親・環境」は未分化だが、幼児は環境の中に何らかの規則性があることを見つけて安定する。

一定の規則に従う世界 ⇔ 散乱、無秩序な世界にいる
（ 快 ） ⇔ （ 不快 ）

* 規則に従うものを見つける遊び

ウ. 幼児の「自己感覚」は形成され始めて、「母親・環境」とは身体が別になっていることに気づき始める。

母親と一体 ⇔ 分離

母親に見守られている ⇔ 母親から見放されている

* 母親に見守られているイメージを強化できる遊び、移行対象の使用

エ. 幼児の「自己」は、他者と安定した関係を保てるようになる。

友達と交流している ⇔ 友達と距離を置く
（情緒・気持ちを伴った 友達から見放されている、孤立
空想・イメージのやりとり） 意図的に付き合わないようにする）

* 家族や友達と情緒的意味合いを確かめながら、規則性のあるものも、移行対象として使ったものも遊びの素材として変質しながら使われる。

イ. の段階では、どう対応したらいいでしょう。

a. 母親・環境が、幼児にとって“規則的でよいもの”として現れるよう工夫して接する。

b. 幼児が遊んでいるものに、母親の情緒を流し込むような働きかけをする。

しかし、一人にしておいて欲しがる子どももいるようです。抱っこを嫌がる赤ちゃん。絵本を読んであげようとすると離れていく。ボールを渡しても投げ返してくれない。

そんな時には…

c. 一人で遊んでいることを尊重する。やがて環境の規則性を喜ぶ段階から、対象の安定性を喜ぶ段階に進むであろうと考え、見守る。

d. 穏やかに「子ども一環境」の安定性を壊さないように、そっと接近し“情緒のやりとり”

をすることに慣れさせていく。

ひょっとすると“情緒のやりとり”を意味不明と感じているかもしれません。(意味不明 … 得体が知れない、自分には扱いかねる、規則性がないなど)

あまりにも強い情緒(怒り、悲嘆、冷淡、興奮させる…)に触れ合わせるよりは、穏やかな情緒(大目に見る、安定した接し方)に触れさせ安心させていく。

14. 移行対象は成長するとどうなるの？

幼児と母親の間にあった、移行対象が生じる領域は、成長した人(青年、大人)にとっては、自分と重要な他者との間の領域ということになります。そこには“移行対象”が発展したもの、変化したもの、緻密さを増したものなどが、生まれてきます。

いったん“移行対象”は忘れられてしまうようですが、変化し発展を遂げて、成人の文化活動一般に広がっていくようにも見えます。

手芸、趣味(ホビー、マニア)、音楽(リズム、メロディー)、建築、宗教的なもの、芸術などの形を取って行きます。

* 参考にした本

「いもうとのにゅいん」 筒井 頼子 さく

林 明子 え 1983年 福音館書店

「こんとあき」 林 明子 さく 1989年

福音館書店

「遊ぶことと現実」 D.W. ウィニコット

橋本 雅雄 訳 1979年 岩崎学術出版社

所長あいさつ

所長 宮地 泰士

所長としてセンターに就任して1年がたちました。子どもの発達や育児の相談などで毎日多くの方と関わり、成長段階で重要な位置を占める幼児期の療育をどのように実現していけるか日々奮闘中です。

この春、人事異動で職員の顔ぶれも少し変わりました。引き続き対応する職員だけでなく新たにメンバーとして加わった職員もいます。職員一人ひとり

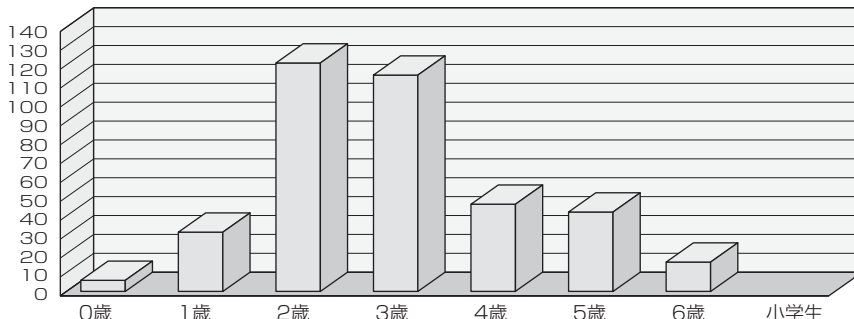
が与えられた場所で、皆様の声に耳を傾け、よりよい支援に結びつくような働きをしたいと思っております。

今後も地域に根ざした療育センターであり続けたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、このたびの熊本地震により被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

平成27年度新規相談の概要

年齢別新規相談件数



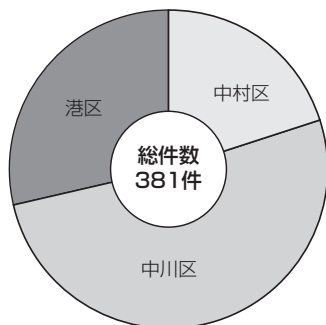
総件数
381件

■年齢別新規相談件数

(単位：件)

年齢	就 学 前 児 童							小学生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
計	8	31	121	116	47	42	16	—	381

区別新規相談件数



■年齢別・区別新規相談件数

(単位：件)

区	就 学 前 児 童							小学生	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
中村区	2	10	22	19	8	13	3	—	77
中川区	5	15	74	52	24	15	10	—	195
港 区	1	6	25	45	15	14	3	—	109
計	8	31	121	116	47	42	16	—	381

平成28年度 西部地域療育センター連続講座のご案内

第1回 講演会

講 師	名古屋市西部地域療育センター 宮地 泰士 所長（小児科医） 「事例で学ぶ発達障害の理解と指導～幼児期を中心に～」
日 時	平成28年6月24日（金）PM3：30～5：00
会 場	西部地域療育センター1階 多目的ホール
対 象	保育園、幼稚園、小学校、療育施設、関係機関の職員のかた

体験型講座

講 師	名古屋市西部地域療育センター 近藤 久美 作業療法士 「発達障害の子どもに道具操作を教える（実践編）」
日 時	平成28年7月22日（金）PM3：30～5：00
会 場	西部地域療育センター2階 遊戯室
持ち物	スプーン、はし、筆記用具を持参ください。実践で使います。
対 象	保育園、幼稚園、児童発達支援事業所の職員のかた

通園部一日体験

日 時	①平成28年8月23日（火） ②平成28年8月25日（木） ③平成28年8月30日（火） ④平成28年9月1日（木）
会 場	西部地域療育センター内通園部「キララ」
対 象	保育園、幼稚園、児童発達支援事業所の職員のかた

療育グループ体験

日 時	①平成28年7月25日（月） ②平成28年7月26日（火） ③平成28年7月27日（水） ④平成28年7月28日（木）
会 場	西部地域療育センター療育グループ
対 象	保育園、幼稚園、児童発達支援事業所の職員のかた

ボランティア募集

保育場面での手助け（室内の活動、園外への散歩など）
教材づくり
保護者活動時における療育児のきょうだいの保育
センター行事（運動会、夏祭りなど）のお手伝い
その他、園の環境整備など

■お問合せ・お申込み■

名古屋市西部地域療育センター

名古屋市西部地域療育センターだより 第34号

発行日 2016年5月

編集・発行 名古屋市西部地域療育センター

〒454-0828 名古屋市中川区小本一丁目20-48

Tel. (052) 361-9555 Fax. (052) 361-9560



この機関紙は古紙/パルプを含む再生紙を使用しています。